

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 12 月 17 日 (2020.12.17)

【公開番号】特開 2019-97678 (P2019-97678A)

【公開日】令和 1 年 6 月 24 日 (2019.6.24)

【年通号数】公開・登録公報 2019-024

【出願番号】特願 2017-229369 (P2017-229369)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/537 (2006.01)

A 6 1 F 13/535 (2006.01)

A 6 1 F 13/53 (2006.01)

A 6 1 F 13/511 (2006.01)

A 6 1 F 13/512 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 13/537 2 2 0

A 6 1 F 13/535 2 0 0

A 6 1 F 13/53 3 0 0

A 6 1 F 13/511 1 0 0

A 6 1 F 13/511 4 0 0

A 6 1 F 13/512 2 0 0

A 6 1 F 13/537 3 1 0

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 11 月 6 日 (2020.11.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

液透過性の表面シート、液保持性の吸収体、及び該表面シートと該吸収体との間に配される液透過性の中間シートを備える吸収性物品であって、

前記中間シートは、その非肌対向面に、該中間シートに隣接する前記吸収体に接触する複数の接触部と該吸収体に接触しない非接触部とを有し、

前記中間シートを前記吸収体側から厚み方向に 30 g f / cm^2 の圧力で押圧したときに、押圧した押圧面に対する、該押圧面に存在する複数の前記接触部が前記吸収体に接触する接触面の総面積の割合が 80 % 以下であり、

前記表面シートは、第 1 シートと第 2 シートとの積層体を含み、該積層体において両シートが部分的に接合されて複数の接合部が形成され、

前記接合部には、該接合部を貫通する開孔が形成されており、

前記中間シートは、その肌対向面に、非肌対向面側に向かって凸に凹陷し且つ前記表面シートと接触しない肌側非接触部を有しており、

前記開孔と前記肌側非接触部とは、厚み方向に、20 % 以上重なっており、

前記肌側非接触部と 20 % 以上重なっている開孔が、該開孔全体の 3 割以上である、吸収性物品。

【請求項 2】

前記吸収性物品を平面視して、複数の前記接触部は、一方向に離間して配置されている、請求項 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 3】

前記吸収性物品を平面視して、複数の前記接触部は、二方向に離間して配置されている、請求項 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 4】

前記中間シートは、その肌対向面に、前記表面シートと接触する肌側接触部を有し、

前記中間シートを前記表面シート側から厚み方向に 30 g f / cm^2 の圧力で押圧したときに、押圧した押圧面に対する、該押圧面に存在する複数の前記肌側接触部が前記表面シートに接触する接触面の総面積の割合が、前記非肌対向面側の前記接触部が前記吸収体に接触する接触面の総面積の割合よりも大きい、請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 5】

前記表面シートが第 1 シートと第 2 シートとの積層体を含み、該積層体において両シートが部分的に接合されて複数の接合部が形成され、該第 1 シートが該接合部以外の部位において該第 2 シートから離れる方向に突出して、着用者の肌側に向かって突出する複数の凸部を形成しており、

前記第 2 シートの非肌対向面が平坦面である、請求項 1 ～ 4 の何れか 1 項に記載の吸収性物品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

中間シート 5 は、図 2 に示すように、その肌対向面に、非肌対向面側に向かって凸に凹陷し且つ表面シート 2 と接触しない肌側非接触部 53N を有している。具体的には、非肌対向面の接触部 54S においては、非肌側凸部 52 が吸収体 4 に接触して形成されており、接触部 54S に位置する中間シート 5 の肌対向面が非肌対向面側に向かって凸に凹陷しており、肌側非接触部 53N が形成されている。このように肌側非接触部 53N は接触部 54S に対応する位置に配されている。非肌側凸部 52 の内部は、構成繊維で満たされておらず空洞となっており、非肌側凸部 52 の内部が空洞となっているので、中間シート 5 の肌対向面側で表面シート 2 から移行した軟便を拡散せずにストックすることができる。同様に、肌対向面の肌側接触部 53S においては、肌側凸部 51 が表面シート 2 に接触して形成されており、肌側接触部 53S に位置する中間シート 5 の非肌対向面が肌対向面側に向かって凸に凹陷しており、肌側接触部 53S が形成されている。このように肌側接触部 53S は非肌側の非接触部 54N に対応する位置に配されている。肌側凸部 51 の内部は、構成繊維で満たされておらず中空の内部空間となっている。